

ひらほく新聞



「ひらほく新聞」で検索！
 ★ホームページ・ひらほくランド★
<http://www.hirahoku.com/>
 ☆バックナンバー含め「ひらほく新聞」を
 閲覧・ダウンロード可能です！

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

祈る力の時代 いま明かされる 神社の秘密

リュウ博士の伝える祈りの際の祝詞「祓いの言葉」を山本が筆文字で書き、他のメッセージと併せてポストカードセットにして5日発行のチケプレにてプレゼントします！お楽しみに！

昨年夏、当紙面でご紹介した「まわしよみ新聞」のイベントでは、3人グループで新聞作りを楽しみました。その時のお一人がリュウ博士こと、八木龍平さん。その八木さんがこの度、書籍「成功している人は、なぜ神社に行くのか？」(サンマーク出版)を初出版。神社好きの自分は、まさに引き寄せの出会いを感じました。素直にうなづけることと、唸るほどに納得すること、しきり。いま明かされる、誰も知らなかった「神社」の秘密。発売後2週間強で大増刷9刷5万部突破、アマゾン総合最高4位！超話題の書籍より抜萃、ご紹介します。

著者の八木龍平さんは、「リュウ博士」として人気のブログですが、科学者(英語でPh.Dと呼ばれる博士)でもあり、さらに霊能力者でもあります。そんなリュウ博士が、神社の神さまの正体や願いがかなう「スキマの法則」など、神社の「見えない仕組み」を科学者の視点(統計データ)と霊能力者の視点(感覚)から、難しいことをわかりやすくおもしろく解説していきます。

1500円+税 お取り寄せ可

成功している人は、なぜ神社に行くのか？

八木龍平 著

日本古来の願いをかなえるシステム

日本全国の神社を巡り、神さまの秘密を探る。著者・リュウ博士の祈りの実践を公開！

日本全国の神社を巡り、神さまの秘密を探る。著者・リュウ博士の祈りの実践を公開！

「スキマの法則」

神さまとの交流は、「スキマをつくること」がポイント。祈るときに、あなたの心が悩みや雑念や頼みごとでいっぱいだと、神さまが入り込む「スキマ」がありません。しかし、「無心に近づくと」そこに神さまが入ってきます。同時に、願いごとがあれば、その意思を伝えることも大切です。祈りは、もともと「意(い)直(の)り」。意思を宣言する行為だからです。祈りとは神さまとの交流、そのコミュニケーションのポイントには、「自分の意思を伝えるだけでなく、神さまの意思を受け取る」こと。

神さまの頼みとは、基本は誰かとハッピーな関係を結ぶこと。祈ることによって、神さまが自分の中に入ってきて、他人と自分を幸せにするご縁を結びます。そして、この入ってくるスキマを自動的につくるスイッチが、神道の祝詞でした。このように、神社で祈ること、僕たちはいつでも神さまとつながり、あの世の意思をこの世につないできました。神社での祈りこそが、日本に古くから伝わる「行為の中に埋め込まれた知恵」であり、日本版ザ・シックレット「スキマの法則」なのです。

神さまに伝わる「スキマの法則」の祈り方

- ①住所・氏名を伝える
- ②神社にお参りできたことへの感謝を伝え、願いごとを一つだけお伝えする
- ③祝詞とよばれる神道の言葉を唱える
(はらいたまえ・きよめたまえなど、祓いのことば)

祈りの集合体

神さまの正体

神さまとは人間の創造物なのです。想像上の存在ではなく実在しているのです。神社の神さまとは「意思と目的を持った知的生命体」なのです。神さまのもとになった故人の意思は、初心として中核にはあるものの、どんどん上書きされていきます。日本に暮らした人々の2000年にわたる祈りが、神さまを日々進化させてきたのです。神社が建てられて以来、これまで祈り支えてきた人々の思いが積み重なった祈りを集合意識といいます。歴史を知ることが、その神社の集合意識を知ること。予習をして参拝すると、自分もその集合意識の一部になり、「神の風」の吹きぐあいいも全然違いますよ。日本を動かした天下人は必ず特定の神社を信仰している

神宮参拝にあったのです。経営の神様といわれる現・パナソニックの創業者・松下幸之助は、社内のあちこちに神社(龍神)をつくりました。幸之助はいつも「感謝と素直」を祈ったそうです。天下人や大企業の創業者たちのように、神社の特別さを理解している人は神さまのバックアップをえて、たしかに活躍をしています。さあ、つぎはあなたの番です！

人工知能にはできない「祈る力」の時代

これまでこの「祈る力」が、成功や幸せ、企業経営や社会の統治に大きな役割をはたしてきました。そして、科学技術がますます発展する21世紀において、この「祈る力」が、これからもっとも大事なスキルになるのです。「科学のすすんだ時代だからこそ」祈る力が重要になってきます。今後、人工知能(AI)にできない仕事はなにか？医療・健康・福祉や、子育て・教育・人材育成などを軸とした「人を見守り育てる仕事」が、これから求められる職業です。そして、見守り育てるのに必須のスキルが、じつは「祈る力」なのです。(ここまで書籍より)

神社好きの私山本は、毎月、氏神様へのお朔日参りを続けてきました。そして、自分を名乗り、感謝を伝え、神さまのご慈悲の心が多くの人たちに届きますようにとお参りしてきました。今回、リュウ博士のこの書籍を読んで、「神さまからのお役目」を有難く受け取り、初めての神社に予習をして「神さまが入るスキマ」ができる祓い・祈り方を実践、参拝したところ、しっかりと心地よい風を感じることができました。2020年、東京五輪へ向け、外国人来日の著しい増加が予想されるなか、この日本の誇る神社というシステムを、秘密にすることなく全世界に広めていく、まさに大チャンスではないでしょうか。

ヴァーチャル参拝法も紹介されていますが、全国に行きたい神社もたくさんありました。そして、以前から重要だと知っていた産土神(生まれた土地の神様)自分は故郷新潟の菅原神社へ、この夏参らなければと強く感じました。有名な神社でなくても、まず氏神様や行きやすい神社へ、日本の神さまに会いに行きましょう。「世の中をよくしなさい」というお役目をささずかり、共に住みよい未来社会の創造へ、祈りを続けましょう。

甲子園への道は

白の道

今夏の高校野球地区大会は、知人関係で、有難く数多くの高校を応援させていただきました。

その一つ、故郷新潟の我が母校も以前指導していただいたことのある、二度の甲子園経験を持つ名将、鈴木春樹監督率いる県立長岡大手高校。2014年から母校に着任、夏の甲子園出場が新潟県で最高七度の実績を誇る名物監督だった父、鈴木春樹氏譲りの厳しい練習と、「高校野球を通して自分をどう成長させるか」という徹底した教えで、わずか2年ほどで素晴らしいチームをつくりあげました。この夏の成績は、昨秋の優勝、準優勝校を打ち破り、公立校ながらベスト8までいきました。

鈴木監督とは、野球関係者の方を通じて、2年ほど前からフェイスブックでつながっており、今年はその活躍を特に注目していただきました。以下、鈴木監督が昨年発信された内容より、指導した選手が新聞に投稿した感動溢れる素晴らしいメッセージをご紹介します。

将来を見据え野球に奮闘

長岡市 木歩士 大成 (17)

小学校四年生から始めた野球が九年目を迎えた。今までは、ただ好きだから野球をやっていたが、高校二年のとき、ある先生のおかげで野球というものとのらえ方が変わった。

今までの僕は、野球は野球、勉強は勉強、日常生活は日常生活と分けて考えていた。しかしそのような考え方は、それぞれがうまくいっても意味がないのだ。なぜなら、今やっていることの先に何かあるかということが見えず、何にもつながらないからだ。

死ぬ気で野球を努力して甲子園へ出場しても、日常生活がだらしなかったら意味がない。大切なのは野球と日常生活をつなげること。野球を死ぬ気で頑張ったのなら、日常生活も死ぬ気で頑張る。そうではないと野球で頑張ったものが、自分の将来に生きてこない。八年間も野球に携わらせてもらう中で、こんなにも「野球」「人間として」について真剣に考えたのは初めてであった。

長岡大手高校の誇り

全国各地でそれぞれにたくさんの感動ドラマが生まれたであろう地区大会。

今夏の長岡大手は、第三シード、そして県内屈指の強豪・日本文理や昨秋準優勝の村上桜ヶ丘も同じブルックに入り、最激戦区といわれました。そんななか、強豪校撃破へ吹奏楽部の応援も大きな力になったそうです。最後の敗戦後、その吹奏楽部2年生の生徒さんから熱いメッセージが届きました。鈴木監督が紹介されました。こちらです。

この度は私たちに貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。みなさんのがんばっている姿、真剣なまなざしを見て、胸が熱くなりました。野球部が愛される理由が改めて分かりました。

野球部は、長岡大手高校の誇りだと思います。たくさんさんの感動をありがとうございました。今では野球部の夢が私の夢です。これからも応援しています。がんばってください！

父の過ち

◎5月号にてご紹介しました、(株)タニサケ・松岡浩会長より、新たな小冊子「乾いた雑巾を絞る」をいただきました。その中から感動の一篇を有難くご紹介させていただきます。

子を養い

「その少年の名前を篠崎と

いいです。六年生の篠崎少年は、運動会で白の大將になって騎馬帽子取りを行いました。篠崎少年の白は終わりの合図が鳴った時にはほとんど取られてしまっ

て、ほんの二・三騎しか残っていない。ところが赤を見るとまだいっぱい馬が残っていた。分かれて自分の陣地に戻らないといけないわけでありますが、篠崎少年は無性に悔しくて、自分の乗っている騎馬を返し、意気揚々として陣地に引き上げて行く敵の大將を追いかけて、後ろからその帽子を取ってしまったのです。そして、篠崎少年は味方の陣地に帰ってきた。

見物人は、ヤンヤの喝采。大笑い。おもしろかったのだ。その時です。観衆の中から粗末な着物を着たお母さんが草履を履いて飛び出してきて、篠崎少年を騎馬から引きずり降ろした。そして、声涙ともに下る折檻をしました。声涙と泣くのは声と涙ですね。『おまえのその負け方は何だ。お母さんは負けたことを咎めているのではない。その負け方は男らしくない。』。こう言つて、涙を流して叱ったのです。

父の過ち

「その少年の名前を篠崎と

いいです。六年生の篠崎少年は、運動会で白の大將になって騎馬帽子取りを行いました。篠崎少年の白は終わりの合図が鳴った時にはほとんど取られてしまっ

て、ほんの二・三騎しか残っていない。ところが赤を見るとまだいっぱい馬が残っていた。分かれて自分の陣地に戻らないといけないわけでありますが、篠崎少年は無性に悔しくて、自分の乗っている騎馬を返し、意気揚々として陣地に引き上げて行く敵の大將を追いかけて、後ろからその帽子を取ってしまったのです。そして、篠崎少年は味方の陣地に帰ってきた。

見物人は、ヤンヤの喝采。大笑い。おもしろかったのだ。その時です。観衆の中から粗末な着物を着たお母さんが草履を履いて飛び出してきて、篠崎少年を騎馬から引きずり降ろした。そして、声涙ともに下る折檻をしました。声涙と泣くのは声と涙ですね。『おまえのその負け方は何だ。お母さんは負けたことを咎めているのではない。その負け方は男らしくない。』。こう言つて、涙を流して叱ったのです。

やがて四十年が経ちました。昭和二十年に敗戦になって、本土の部隊は全部自

編集後記

今夏の高校野球地区大会

では、身近に応援する学校があり、4回戦まで3試合を直接応援に行きました。

負けたら全て終了という一戦一戦、手に汗握る展開の連続に、多くの感動をいただき感謝でいっぱいです。

度重なる満塁というピンチの際に、帽子のつばの裏をじつと見つめ、気持ちを奮い立たせて乗り切った投手。そこには大きく「真つ向勝負」とあり、その周りにはベンチ入りできなかった3年生の仲間たちにサインをもらっていたと新聞記事にありました。

試合前後に互いの健闘を讃え合う「エール交換」は、勝負に対する考え方が違う外国にはない習慣のようです。「礼に始まり礼に終わる」。まさに日本の『道』という素晴らしい礼儀作法の伝統です。

編集後記

今夏の高校野球地区大会

では、身近に応援する学校があり、4回戦まで3試合を直接応援に行きました。

負けたら全て終了という一戦一戦、手に汗握る展開の連続に、多くの感動をいただき感謝でいっぱいです。

度重なる満塁というピンチの際に、帽子のつばの裏をじつと見つめ、気持ちを奮い立たせて乗り切った投手。そこには大きく「真つ向勝負」とあり、その周りにはベンチ入りできなかった3年生の仲間たちにサインをもらっていたと新聞記事にありました。

敗戦後、3年生選手のお父さん・関係者との最終挨拶。ご家族の思いは如何ほどか、このミーティングはただただ涙なみだです……。監督のメッセージの如く、仲間たちとこの2年半で学び成長できたことを感謝とともに、いかに将来の自分へ生かしていけるか。かけがえのない財産を大切に、さらに磨いていってほしいと思います。(完)